

実践検証から生まれた知を、仕事で使うために

相手の仕事を確かめ、考え方をつくり直す

自分の想定と本人の説明を比べ、小さく試した結果から見方を更新する

この例で考えること

相手の立場を想像することに加え、本人の実務を確かめると、必要だと思っていた支援が変わることがあります。想定と事実の違いから、一部を変えて確かめます。



想定する使い手

提案・指導・引き継ぎなどで、相手の仕事を支える社員・リーダー

01 仕事の場面から

この場面で、何を見直すか



説明用の場面

提案・指導・引き継ぎを終えた。相手は、受け取ったものを何に使い、どこで判断しているのか。

進め方の例

自分の経験から、相手に必要だと思う情報や方法を届ける。

加えて確かめること

本人に仕事の目的と進め方を確かめ、合意した一部分を変え、結果と双方の負担から見方を選び直す。

この例の問い

相手のためだと思ったことは、相手が次に進める仕事と合っているか。

02 最初の一步

一件の仕事から、始める

一人で仕事を確かめるところから、必要な相手と相談する。

まず、確かめること

最近の提案・指導・引き継ぎを一件選び、相手が次に判断することを本人に確かめる。

仕事に関わる相手と確かめる

相手のためだと思ったことは、相手が次に進める仕事と合っているか。

周囲と、できる条件を整える

時間・資料・相談先と、判断できる範囲をそろえる。権限外の変更は、必要な相手と相談する。

条件が整ったら、合意した一件で試す。結果と双方の負担から、続け方を選び直す。

03 ともに学ぶ場合の構成例

学びと職場を、往復する

形にする → 一件で使う → 記録を持ち寄り、選び直す。

1 相手の実務を知り、自分の想定を置く

形にする：相手の仕事と確認事実のメモ

→ 職場で一件試す。記録を、次の学ぶ機会へ持ち寄る

2 想定と事実を比べ、相手と一部分を変える

形にする：相手と選んだ一部分の変更案

→ 職場で一件試す。記録を、次の学ぶ機会へ持ち寄る

3 試した結果から、仕事の見方を更新する

形にする：結果から更新した仕事の見方

→ 終了後の仕事で、継続と支援を確かめる

構成例：全3回・各180分。仕事と条件に合わせて調整します。

各回の間に、合意した一件で試します。実践機会がない場合は、未実践と必要な条件を残します。

04 ともに考え、形にする

相手の実務を知り、自分の想定を置く

第1回 / 180分の構成例

相手は、何が分かり、何が整えば、次の仕事へ進めるか。

取り組むこと

- 1 提案・教える・引き継ぎから一件を選び、相手の前後の仕事を捉える
- 2 相手が何を判断するかを本人の言葉・資料で確認する
- 3 自分が必要だと思ったことと、本人に確かめた事実を並べる

手元に残すもの

相手の仕事と確認事実のメモ
自分の想定・未確認の比較シート

ここで確かめること

想像した必要と、相手本人に確認できたことを分けて説明する。

04 ともに考え、形にする

想定と事実を比べ、相手と一部分を変える

第2回 / 180分の構成例

どの確認事実から、何を変え、何を変えずに試すか。

取り組むこと

- 1 想定と本人確認の違い、合っていた点と未確認を見比べる
- 2 提案・説明・練習・引き継ぎの一部を、相手と相談して変える
- 3 試す範囲・相談先と、相手の前進・自社成果・双方の負担を確かめる記録を決める

手元に残すもの

相手と選んだ一部分の変更案
試す条件と結果・負担の確認メモ

ここで確かめること

相手との合意、実際の実行と未実践を分ける。相手起点と効果・効率を同じ尺度にしない。

04 ともに考え、形にする

試した結果から、仕事の見方を更新する

第3回 / 180分の構成例

結果から、相手の仕事についてのどの見方を保ち、変え、保留するか。

取り組むこと

- 1 試す前の見込みと、相手の反応・仕事の経過を照らす
- 2 相手の前進、自社の成果、双方の時間・手戻りを分けて振り返る
- 3 見方を保つ・変える・まだ判断しないを選び、次の一件と確認を決める

手元に残すもの

結果から更新した仕事の見方
次の一件と見直す条件のメモ

ここで確かめること

満足や一度の反応だけで定着・業績効果を断定せず、実行・結果・負担と別の説明を残す。

05 学ぶ機会のあいだに

仕事と、次の学びをつなぐ

各回で形にしたものを、合意した一件で使って確かめる。

01 第1回後

共有してよい範囲で相手の実務を一件確かめ、本人の言葉と自分の想定を別に残す。

02 第2回後

相手と合意し、権限の範囲で一部分を変える。実行したこと、相手の次の判断、双方の負担を残す。

03 最終回後

次の一件でも本人確認と想定と比較を使い、変えた見方が使える条件と残る未確認を確かめる。

06 結果から見直す

変化を、分けて確かめる

既存の成果物や短いメモで、予定と実際を照らす。

実行したこと	どの場面で、何をしたか。試せなかった場合は、その条件。
取り組む人の判断	何を見て、どう選んだか。使った支援と、自分で担った範囲。
相手の仕事と結果	相手が次に何を進められたか。品質や提供結果で、まだ分からないこと。
双方の負担	取り組む人・相手・支援者の時間や負担。別の部門へ負担が移っていないか。

確認の観点：自分の想定と、相手本人の言葉・資料で確かめた事実を分けたか。／ 相手と合意した変更を、権限と実務機会の範囲で試せたか。／ 相手の前進・自分たちの成果・双方の負担から、見方を保つ・変える・保留を選んだか。

07 使う前に相談する

自分の職場に合わせて使う

このまま当てはめず、対象の仕事と条件から組み立てる。

扱う範囲

考え方をつくる研修として、相手の仕事の確認、想定と事実の比較、合意した試行と見直しを扱う。相手起点かどうかと、効果・効率の評価は別に考える。専門基準・契約・権限の変更は、正式な担当者へ相談する。

用意するもの

共有できる一件の記録・資料を用意する。対象者の経験、実務で試す機会・権限・相談先を確認し、難しい場合は架空例や既存記録で検討する。

目的・対象・時間・進行役・仕事で試す範囲を、関係者と確認します。社内の対話や学習会、研修の企画にも使えます。

08 知との接点

研究・観察から、実践の案へ

根拠の位置づけを確かめ、自分の仕事で使える範囲を考える。

この例の組み立て方

「相手の仕事から、考え始める。」の講師観察と関連研究を踏まえた実践提案を、共同で学ぶ案へ展開しています。観察された理解の変化と、考え方の定着・業績への効果は区別します。

公開資料を読む

各資料の対象・方法・時点と、
確かめられた範囲を確認する。

仕事に合わせて選ぶ

今回の仕事に合う問いと方法を選
び、必要な支援と実践機会を
整える。

結果から見直す

実際の判断・行動・結果・負担
から、使い方と成立条
件を見直す。

09 出典と、次の探索

参考資料と、この例の接点

表題を選ぶと、公開資料を開けます。

01 相手の仕事から、考え始める。

この例では：相手の実務と自分の想定を比べ、小さな変更と結果から見直す。

位置づけ：14名に関する講師観察と関連研究を踏まえた提案です。半年間の支援も下地の可能性があり、定着・業績効果は未測定です。

02 なぜ、相手の仕事から考えるのか。

この例では：自分の完了と相手の判断・実行を比べる理由を押さえ、本人への確認と、合意した一部分の試行につなぐ。

位置づけ：実践記録と外部研究を読み合わせた実務提案です。比較・開発場面は例で、手順全体の効果を実証したものではありません。

ほかの問いや手引き：chi-to-jissen.requestgroup.jp/practice

09 出典と、次の探索

参考資料と、この例の接点

表題を選ぶと、公開資料を開けます。

03 自分の仕事は終わった。相手の仕事は進んだか。— 仕事の受け渡しを見直す図解16枚と報告書32ページを無料公開

この例では：渡した情報が、相手の次の判断・実行に使われたかを捉える。

位置づけ：仕事の受け渡しを見直す実務提案です。相手の仕事と条件を確かめ、説明用の例を実測成果として扱いません。

04 経験が、判断を育てる。

この例では：試す前の見込みと実際の経過から、次の対応を選び直す。

位置づけ：10か月間の複数人の本人報告に着目した分析です。全員共通の成長段階や、今回の学習案の効果を示しません。

ほかの問いや手引き：chi-to-jissen.requestgroup.jp/practice